

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
国公立対策講習 国語	1	2年1類	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
****	なし	古文上達 (Z会)、基礎からのジャンプアップノート (旺文社)	

科目の到達目標
1年次の国語総合、2年次の現代文、古典での学習を基礎として、国公立大学入試及び大学入学共通テストに対応するための力を養う。
入試問題を読み解くために必要な知識や読解力を身につけ、解答を作成できる力を養う。

評価の観点と方法について
課題への取り組み・提出状況、講習への出席状況、受講態度等を加味して総合的に判断する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一学期	4	古典文法 用言・助動詞	・これから古文や漢文の学習を行っていくうえで必要となる基本的な文法事項を確実に身につける。	・用言・助動詞について基本的な事項を確認した後、演習問題に取り組む。
	5			
	6	漢文の基礎 模試過去問の演習	・漢文を読解するために必要な基礎知識を身につけ、短文を読めるようにする。 ・過去の模試で出題された問題に取り組み、解答を作成する力を身につける。	・訓点などの基本的な事項を確認した後、演習問題に取り組む。 ・前年度の模試問題に取り組む。
	7	漢文句法 「再読文字」「使役形」 など 夏期講習	・漢文を読解するために必要な句法の知識を身につけ、短文を読めるようにする。	・句法の知識を身につけることの意味を理解する。句法について基本的な事項を確認した後、演習問題に取り組む。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	漢文句法 「受身」「否定」など	・漢文を読解するために必要な句法の知識を身につけ、短文を読めるようにする。	・句法について基本的な事項を確認した後、演習問題に取り組む。
	10	模試過去問の演習	・過去の模試で出題された問題に取り組み、解答を作成する力を身につける。	・前年度の模試問題に取り組む。
	11	漢文句法 「疑問・反語」「比較」 など	・漢文を読解するために必要な句法の知識を身につけ、短文を読めるようにする。	・句法について基本的な事項を確認した後、演習問題に取り組む。
	12	冬期講習		
三 学 期	1	模試過去問の演習	・過去の模試で出題された問題に取り組み、解答を作成する力を身につける。	・前年度の模試問題に取り組む。
	2	漢文句法 「抑揚」「限定」「漢詩」 など	・漢文を読解するために必要な句法の知識を身につけ、短文を読めるようにする。	・句法について基本的な事項を確認した後、演習問題に取り組む。
	3			

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

・授業での学習事項が基礎となります。現代文、古典ともに授業内容の理解、小テスト等への取り組みはしっかりと行って下さい。

・入試に対応する力を講習時間のみですべて身につけるのは、非常に困難です。テストのための学習や課題への取り組みは、各自で確実に行うようにして下さい。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
国公立対策講習 英語	1	2年I類	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
****		ハンドアウト ユメタン 1	

科目の到達目標 ○英文法をきちんと理解し、教科書レベル以上の問題を解くことができる。 ○入試レベルの長文を理解する語彙力をつける。 ○応用問題に慣れる。
--

評価の観点と方法について 毎時間の学習態度、提出物、本人の努力を考慮して評価する。 毎回の授業でユメタンの単語テストをする。

	月	学習単元	学習項目	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4		関係詞(1) (2)	毎回配られるプリントで学習する。文法問題を中心に基礎の定着を図るが、英語検定の過去問なども利用し、あらゆる出題形式に対応できるようにする。また、後半からは応用・入試問題にも積極的に挑戦してもらおう。毎時間ユメタンのテストをおこない、語彙力を上げる。	①授業に積極的に参加しているか。 ②各単元・項目が理解できているか。 ③予習・復習がなされているか。 ④小テストや課題にしっかりと取り組んでいるか。
	5		(3) 比較 (1)		
	6		(2) 仮定法(1) (2) 構文		
	7		時制の一致と 話法(1)		

		学習単元	学習項目	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9		時制の一致と 話法(2)	一学期に同じ	一学期に同じ
	10		疑問文と疑問 文		
	11		否定(1)		
	12		否定(2)		
三 学 期	1		名詞構文・無 生物主語	一学期に同じ	一学期に同じ
	2		代名詞(1)		
	3		代名詞(2)		
			前置詞		
			接続詞(1)		
			接続詞(2)		
<p>その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）</p> <p>授業で配布されたプリントの復習と理解を徹底してください。 この1年間でしっかり入試への基礎固めをしましょう。 英語は努力し始めてから結果が出るまでに時間がかかります。最上級学年になる前から長期計画で準備をしてい きましょう。</p>					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
国語科（指名者講習）	2	2年1類	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
****		精選古典B（東京書籍） 精選現代文B（東京書籍）	古文単語330(いっぴな書店) クリアノート（尚文出版）など

<p>科目の到達目標</p> <p>現代国語・古典の基礎的な内容の復習によって、一年次に学習したことの強化を図る。</p> <p>主に一年次の古典学習の基礎を復習し、授業の補習を行うことによって、授業内容の理解度を高める。</p> <p>適宜、小テストや定期考査対策を行い、学習習慣を身につけ、基礎学力の定着を図る。</p>
--

<p>評価の観点と方法について</p> <p>課題や授業プリントの提出と小テストによって、授業の理解度を確認するとともに、授業態度、中間・期末考査の成績の結果をもってその評価とする。</p>

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一 学 期	4	一年次の復習 動詞・形容詞・形容動詞 助動詞など	<ul style="list-style-type: none"> ・古典文法の基礎を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントを用いて古典の基礎的な内容を復習する。
	5	説話『宇治拾遺物語』 「小野篁、広才のこと」 説話『古今著聞集』 「能は歌詠み」 1 学期中間考査	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の内容がとらえられているかを確認する。 ・敬語表現の基本的な知識が身につけているかを確認する。 ・中間テスト対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・主語、語句の意味、助動詞の意味をおさえる。 ・敬語表現を復習する。
	6	漢文 小話 「先従隗始」	<ul style="list-style-type: none"> ・故事成語の背景が正しくとらえられているかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓読上のきまりをより正しく理解させる。
	7	歌物語『伊勢物語』 「初冠」「渚の院」 1 学期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の内容がとらえられているかを確認する。 ・期末テスト対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・敬語表現が理解できているか確認するとともに、歌の修辞法などについて復習する。 ・現代文、古典ともに要点を整理する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	1学期の復習 物語『更級日記』 「門出」「物語」	<ul style="list-style-type: none"> 基礎知識を定着させる。 日記の内容がとらえられているかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な問題の解き方を身につける。 漢字や語句の意味、古文単語や古典文法を復習する。 重要単語や文法をおさえ、日記の内容を復習する。
	10	漢文 項羽と劉邦 「鴻門之会」「四面楚歌」 （『史記』）	<ul style="list-style-type: none"> 内容が理解できているか確認する。 中間テスト対策 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な句形や基本語句をおさえる。 書き下し文や口語訳の復習。 現代文、古典ともに要点を整理する。
	11	2学期中間考査 物語『源氏物語』 「光源氏の誕生」「若紫」	<ul style="list-style-type: none"> 物語の内容がとらえられているか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 重要単語や文法をおさえ物語の内容を復習する。 敬語を抜き出し、その種類と誰の誰に対する敬意かを確認する。 歌の修辞法や現代語訳を復習する。
	12	和歌「万葉秀歌」 「王朝秀歌」 2学期末考査	<ul style="list-style-type: none"> 各歌集の和歌を読み比べて、時代による歌風の違いや各歌の内容がとらえられているか確認する。 期末テスト対策 	<ul style="list-style-type: none"> 現代文、古典ともに要点を整理する。
三 学 期	1	2学期の復習	<ul style="list-style-type: none"> 基礎知識を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な問題の解き方を身につける。 漢字や語句の意味、古文単語や古典文法を復習する。
	2	歴史物語『大鏡』 「道長、伊周の競射」 「三船の才」 漢文『論語』『孟子』『老子』 など	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的背景とその人間関係をおさえ、物語のあらすじがつかめているか確認する。 内容がとらえられているか確認する。 学年末テスト対策 	<ul style="list-style-type: none"> 重要語句や文法、敬語表現などを復習し、口語訳ができるようにする。 重要語や句法をおさえ、書き下しや口語訳を復習する。 現代文、古典ともに要点を整理する。
	3	学年末考査		
<p>その他（履修上の留意点） 予習・復習を徹底して行い、課題や小テストにも意欲的に取り組むこと。</p>				

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
指名者講習 (数学ⅡB)	2	2年・1類・B型	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
****	新編 数学ⅡB 改訂版 (数研)		基本と演習テーマ 改訂版 数学Ⅱ+B (数研)

科目の到達目標
基礎的な知識・発想の修得と解答能力の習熟をはかる。これらの学習を通して規則性、数学的に表現・考察する能力を育て、 数学的な見方や考え方のよさと必要性を認識させる。1年次の基礎的学力の補充と必要な数学的能力を養う。

評価の観点と方法について
評価は「知識、理解」「関心、意欲、態度」「数学的な見方や考え方」「表現、処理」の4つの観点に基づいて 具体的には、取り組み姿勢・授業態度・出席状況などによって評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	第2章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演習	(数B) ベクトルや直線、円の考え方とその基本的な事項について習得させる。技能を習得させる。	ベクトルの意味 ベクトルの加法・減法・実数倍 ベクトルの平行・分解 ベクトルの成分 ベクトルの内積	基本的な性質を理解することができる。
	5	第1章 式と証明 第2節 複素数と方程式 <中間考査> 第2章 平面上のベクトル 第2節 ベクトルと図形	(数Ⅱ) 高次方程式を、因数分解を利用して解く。 (数B) 位置ベクトルを使って直線や円を表現する。ベクトル方程式の発想を理解させる。平面座標における方程式とベクトル方程式と関係を理解させる。	2次方程式の解と係数の関係 複素数の計算 剰余の定理・因数定理 位置ベクトル ベクトルの図形への応用 ベクトル方程式	定理・公式を理解し、それを用いて基本問題を解くことができる。
	6	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域	(数Ⅱ) x、yで直線・円を表現する。 三角関数について理解し関数についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。	直線の方程式 2直線の関係 円の方程式 加法定理 加法定理の応用 三角関数の合成	適切に問題を解くことができるか。
	7	第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理 <期末考査>			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	第3章 空間のベクトル	(数B) 空間のベクトルでの位置ベクトルの取り扱いを習得させる。	空間における直線と平面 空間座標 空間のベクトル ベクトルの成分・ベクトルの内積 ベクトルの図形への応用	平面と同じように、空間でも、図形の定理・公式を理解し、それを用いて基本問題が解くことができる。
	10	第5章 指数関数と対数関数 <中間考査> 第3章 数列 第1節 等差数列・ 等比数列	(数II) マクロやミクロの世界の物差しとしての対数の必要性を理解させる。定義をきちんと理解させる。	指数拡張 指数関数 対数とその性質 対数関数・常用対数	指数は生徒の苦手な分野である。使いこなせるか。
	11	第2節 いろいろな数列	(数B) 等差数列や等比数列についての基本的な知識及び計算技能を習得させると共に規則性を発見できる能力を養う。	等差数列・等差数列の和 等比数列・等比数列の和 いろいろな数列の和と記号Σ 階差数列と数列の和、いろいろな数列の和	数列の規則性を理解し、一般項を求めることができる。 Σ記号を使いこなせるか。
	12	第6章 微分と積分 第1節 微分係数と 導関数 第2節 導関数の応用 第3節 積分 <期末考査>	(数II) 現代数学の架け橋となった微分の定義を理解させその応用分野の広さを考えさせる。	微分係数・導関数 接線の方程式 増減表と極大・極小 不定積分 定積分と面積	微分係数の意味を理解しているか。その発展として導関数を自由にこなせるか。 微分の反対である積分を理解し定積分の応用に発展できるか。
三 学 期	1	第3章 数列 第3節 漸化式と 数学的帰納法	(数B) 漸化式の意味を理解する。 数学的帰納法の発想を理解する。	漸化式 数学的帰納法	漸化式の規則性から一般項を求めることができる。数学的帰納法を理解し、適切な手順で証明することができる。
	2	*数学演習 IA IIB	(数II) 入試のレベルの基礎をマスターする	授業の補助として簡易に問題を分解して基礎学力から学習をつなげたい。	センター入試や各種学校の入試に対応できる。
	3	<学年末考査>			

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

数学Ⅱの単位が4、数学Bの単位数が2である。授業は早いペースで授業を進められる。教科書の例題や問を補習的に進めていき、問題集の問題を課題として出す。授業についていくためにも復習は必ず行いたい。基本問題だけでなく授業についていけるように応用問題も取り入れていく。問題に対応するためには、普段から問題に対してなぜそうなるのか自分で考え、苦手な学習者は何度も何度も解答を覚えるほど繰り返してほしい。自から身についてくる。寮や自宅での学習の習慣を身に付けたい。日々継続した学習を心がけてほしい。真摯な態度で受講することを強く望む。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
指名者講習英語Ⅰ・Ⅱ	2	2年Ⅰ類 A・B・C型	指名者必修
授業担当者	教科書名		副教材等
****	be English Expression I Standard be English Expression II English Communication II		be 総合英語 be Workbook be 暗唱例文集 等

科目の到達目標
中学時代あるいは高校1年次の履きを克服するため文法の基礎を理解する。
授業の復習を通じて日々の英語の内容をしっかりと定着させる。

評価の観点と方法について
出席状況、授業(講習)中の取り組み方、課題の提出等を総合的に判断する。
苦手であっても克服しようとする姿勢を重視する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	3rd Zone Lesson 17	関係詞1	基本的には英語表現を中心とした授業をする。 考査前にコミュニケーション英語の復習もする。	①授業に積極的に参加しているか。
		Lesson 18	関係詞2	英語表現 ① 説明を聞き理解する。 ② 教科書・ワークの問題を復習し理解を深める。 ③ ペアワークで理解を深める。 ④ 小テスト・暗記テスト等で理解度を確かめる。	②板書事項をしっかりと写せているか。
	5	Lesson 19	関係詞3		③予習・復習がなされているか。
		中間考査 4th Zone Lesson 22	仮定法1	コミュニケーション英語 ① 新出単語・熟語を覚える。 ② 教科書の内容を理解する。 ③ 本文を読んで暗記する ④ テスト対策プリント等で理解度を確かめる	④小テストや課題にしっかりと取り組んでいるか。
	6	Lesson 23	仮定法2		
		Lesson 24	接続詞と 接続副詞		
		Lesson 25	that 節		
7		期末テスト			

	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	Be Expression II Section 1 Lesson 1	時の表し方	学期(考査)ごとに指名されるメンバーも代わるが、A型(文型)とB型(理系)とC型(英語コース)とそれぞれで授業内容や進度も変わってくると思うので、その都度メンバーの顔触れや型を考えていきたい。
		Lesson 2	動詞と文の構造	
	10	Lesson 3	助動詞	
		中間考査 Section 2 Lesson 4	名詞と限定	
	11	Lesson 5	代名詞	
	12	Lesson 6 期末考査	名詞句 名詞節	
三 学 期	1	3rd Zone Lesson 7	形容詞	
	2	Lesson 8	形容詞句	
		Lesson 9	形容詞節 (関係詞節)	
	3	学年末考査		

その他 (履修上の留意点・大学等進学のための学習など)

「文法」と「書くこと」を中心に授業をします。この学年が大学を受験する年から入試が変更されます。センター試験に代わる「大学入学共通テスト」と文部科学省が認定する英語の資格・検定試験が活用される方針です。「共通テスト」は、センター試験と同様に「読む」「聞く」力を測りますが、それに加えて「話す」「書く」力も測るために資格・検定試験が活用されると言われています。そのため「読む」ための基本的な力となる文法、また「書く」ための正しい文法、さらに「話す」ためには、例えばプレゼンテーションやディスカッションでも話す材料がなければできません。単に単語だけ話すわけではありません。ある程度のまとまった文章を言えるようになる。そのためには文法を理解し、教科書に出てくるような基本例文を成り立ち等も理解して暗記できるようになると、自然と「話す」力にもプラスアルファになってきます。そのためにも教科書やワークブックの英文を意識的に声に出して読む習慣もつけるようにしましょう。

またワークブックでは教科書に出ていない単語が出てきます。Vocabulary という欄がありますが、そこにでてる単語は、辞書やユメタンで調べるようにしましょう。そうすることで語彙力が上がります。